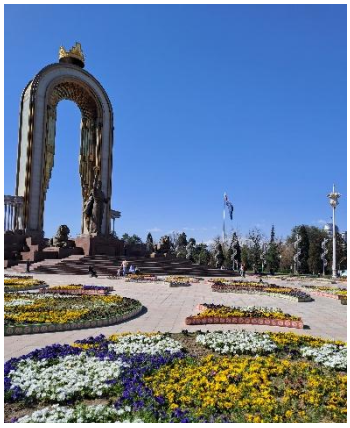
タジキスタン通信

Vol.2（2025. 8 ）

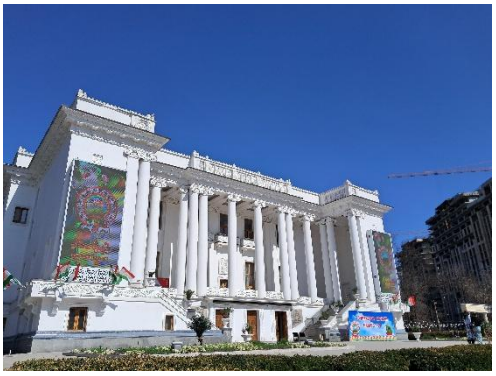
シュモー　チ　ヘル？（お元気ですか）

　タジキスタンの教育機関は、６月～８月（大学は７月～８月）は夏休みです。それもそのはず、こちらは５月ごろから気温 30℃にもなり、７月には 40℃を超えるので、正直勉強どころではないのでしょう。エアコンがついている教室は稀で、ほかのアジア諸国でよく見られるシーリングファンもありません。教室でただじっとしているだけでも、額や背中に汗が流れ落ちます。というわけで、わたしの配属先のロシア・タジク・スラブ大学も今は学生たちのにぎやかな声もなくひっそりしています。



春のイスマイル･ソモニ像

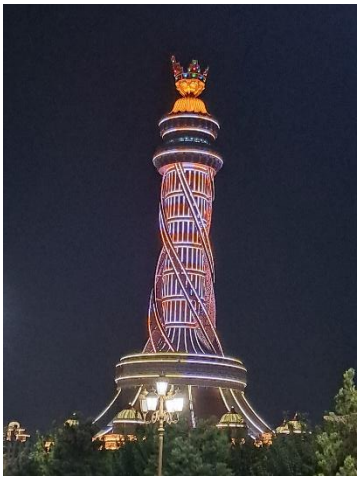
　今回はタジキスタンの首都ドゥシャンベ市内の観光スポットをご紹介したいと思います。まずはなんといってもイスマイル・ソモニ像。ドゥシャンベのシンボル的なモニュメントです。そのすぐ横に、ペルシャ文学の詩人ルーダキーに敬意を表して名づけられたルーダキー公園があります。そしてその向かいには威風堂々と新国会議事堂がそびえたちます。この新国会議事堂は夜にはライトアップされ、昼間とはまた違った魅力を醸しだします。また、旧ソ連邦の一国であった伝統を受け継いでか、白亜のアイニオペラバレエ劇場があり、ここでは９月～６月にわたってバレエやオペラなどさまざまな演目が上演されます。タジキスタン国立バレエ団には、なんと随時日本人バレエダンサーが多数在籍しています。日本から遠く離れたこの地で活躍する日本人に出会えるのはうれしいことですね。そして独立３１周年を記念して建てられたイスティクラル（独立）記念塔。大晦日やナウルーズには、この周りの広場で花火が打ち上げられます。



ナウルーズのころのアイニオペラ
バレエ劇場

　そのほか、巨大な涅槃像が目玉展示の考古学博物館、国立博物館、国立図書館など見逃せないスポットがあります。

ドゥシャンベのバスやタクシーは安くて安心で気軽に使うことができますが、市内の見どころはかたまっているのでぶらぶら歩きながら各観光スポットに立ち寄ることができます。連日 40℃を超える日々がひと段落したころに、ドゥシャンベを訪れて街歩きを楽しんでみてはいかがでしょうか。



ライトアップされた独立記念塔